会報 鳩
ユース版

「中３後期のクラブ活動を継続」が83％

・・・中・高一貫生のクラブ活動接続状況調査

県下初の公立一貫校においては、クラブ活動面においても、中・高の接続に関心が持たれている折、高校に進学した八十名の生徒のクラブ活動への加入状況が判明した。このほど、内進生八十名の状況について、担任の山辺和徳・宮沢宏両先生のご協力をいただき、その接続状況に関するアンケート調査を行うことができ、結果がまとまった。

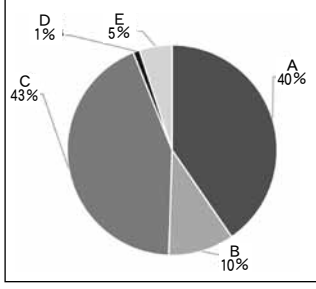
○アンケート対象者　八十名
　回収率九十八％（七十八名）
○入班状況：加入率九十六％　＜表１＞

〈表１〉

	計	運動系班		文化系班		所属なし	入・退班の理由	
							活動そのもの	活動以外諸要素
男子	39	28	72%	10	26%	1	27　71%	11　29%
女子	39	14	36%	25	64%	0	32　82%	7　18%

○考察
【一】内進生の高校でのクラブ活動への参加率は九十六％と極めて高い。＜表１＞
【二】高校進学後の所属先については、中学三年前期まで所属した班へは四十％、また中学三年後期に所属した班へは四十三％が加入して、あわせて八十三％の者が中三後期の活動を経験する中で高校でのクラブ活動を選択している。中三後期からは班の選択肢が広がることも理由と考えられ、一貫教育の特性を生かして、中三後期からクラブ活動が本格化している様子がうかがえる。＜表２＞
【三】入退班の理由では男女差が顕われ、女子の方が、「活動そのもの」を重視する傾向がうかがえる。女子は、練習時間・環境等の「その他要素」が二十％弱に対して八十％以上が、活動への興味・関心に重きを置いて選択している。
【四】全国的に女子中学生の運動部離れの傾向にある（加入率、全国六十四％、長野県五十五％）が、本校の場合も、その延長線上にあるものと推測される。

＜表２＞
中・高一貫生のクラブ活動接続状況



（註）
A　中３前期＋中３後期＋高校が同一班
B　中３前期＋中３後期が同一班
C　中３後期＋高校が同一班
D　中３前期＋高校が同一班
E　中３前期＋中３後期＋高校、すべて異なる班

瀬在幸安氏、北澤俊美氏同窓会名誉会員に

瀬在氏は、千曲市の初代名誉市民にも

去る四月の平成二十七年度総会において、会則第八条に「通常会員の中で、わが国を代表して国際的にも活躍する者、及び本会の発展に著しい功績があった者を名誉会員として推挙することができる」を補記することが承認され、瀬在、北澤の二氏が名誉会員として推挙された。また、瀬在氏は、千曲市議会六月定例会において、初代の千曲市名誉市民の称号も贈られることが全会一致で承認され、その記念授与式も計画されている。なお名誉会長には、第五代の宮崎和順前会長が就いておられる。

両氏の功績等は次のとおり。

瀬在幸安氏（高校第１回）

千曲市内川（旧埴科郡五加村内川）のご出身。専門は心臓外科学及び人工臓器学。心筋梗塞症の手術であるバイパス手術に日本で最初に成功し（昭和四十二年）、補助人工心臓分野でも日本で最初の離脱に成功した（昭和五十七年）。第十代日本大学総長（平成八年～十七年）。順天堂大学の天野篤教授の恩師としても著名。フランス教育功労賞、米国エリザベスタウン大学名誉博士等、海外での叙勲等多数。日大医学部卒、医学博士。フルブライト奨学研究員として、昭和四十年米国オレゴン大学A. Starr博士のもとで基礎・臨床的研究に従事された。

北澤俊美氏（高校第８回）

長野市川中島町のご出身。現在参議院議員で、第七・八代防衛大臣を務められる。長野県議会議員（五期）を経て、参議院議員として四期目。参議院国家基本政策政策委員長、外交防衛委員長等歴任し、わが国の国防と平和に貢献された。東日本大震災の救助活動では、自衛隊史上最大の一〇万人動員を指示し、未曾有の災害の指揮を執られたことは、『日本に自衛隊が必要な理由』（角川テーマ）に詳述される。また、この度の母校多目的運動場・同窓会館用地関係でもご尽力された。早大法学部卒。

平成二十七年度スタート

附属中からの第一期入学生として

高校一年　宮澤文香

附属中学生80名が高等学校に進学したのを機に、平成27年度同窓会総会において「特別報告」としてお話いただいたものです。

本日の同窓会には、思いがけずご招待していただき有難うございました。私は四年前、附属中学校の一期生として入学しました。附属中の三年間はとても充実していて、私たちにしかできない貴重な体験をさせていただきました。中でも一期生で良かったなあと感じたことは、最初にいきなり、高校生の校舎から中学生活をスタートできたことです。まだ附属中の校舎が完成していなくて、隣の教室には高校生がいました。自分たちと4年も歳が離れている高校生に対して、最初は、怖そうだなあとか、逆に高校生は私たちのことをどう思っているのかな、といった不安もありました。

しかし、高校生はまるで私たちのお兄さんやお姉さんのように優しく接して下さいました。一番私が高校生の先輩にお世話になったことは、班活動です。小学校からやっていたハンドボールを中学校でも続けようと、迷わずに入班を決めました。ハンドボールという競技で先輩と後輩の壁を超え、一緒にプレーさせていただいたのは、本当に自分の力になったと思います。

勉強面では、中学校の指導要領の範囲を超えた授業をしていただきました。特に数学では、中学三年生の途中から高校で学習する内容に移っていきました。よく地元の友達から「授業、難しい？」と聞かれましたが、もちろん、進度も速く、ついていくのも大変です。しかし、今思い返してみると、地元の中学生から見る私たちの進み具合は、速いため、「附属中って大変そう」に思えるかも知れませんが、私たちにとっては、それが当たり前でした。地元の中学生にとっても、「学校の授業は大変だな」と感じているだろうと、私たちもそれと同じ感覚だったのかなあ、と思います。

中学校の最高学年となった私は、副校長先生から「文香さん、あなたにとってのこの附属中学校を一言で表すと何だろうね？」と聞かれました。いきなりの質問に悩んでしまいましたが、その末に「誇りですかね。」と答えたことを覚えています。今でも、この附属中学校に第一期生として入学できたこと、そして、伝統の第一歩を築けたことを真に誇りに思い、また感謝をしているところです。

そして、この春、附属中学校で三年間の過程を終了した私は、屋代高校の一年生として入学しました。急に一学年の人数が増えて、今までの八十人から二八〇人になりました。中学生の頃はよく担任の先生から、「お前たちは井の中の蛙だから、大海を知らない。」と言われましたが、この言葉を実感しながら、日々の高校生活を送っております。

入学式における合唱班による校歌の斉唱風景

連載・私の附属中時代（その四）

中高一貫のメリットは「視点を変えられる」こと

東京大学・大学院博士課程　増淵岳也

ますぶちたけや氏　東京都の出身で、開成高校附属中を経て開成高校から東京大学理科一類に進学。工学部化学生命工学を専攻され、現在大学院新領域創成科学研究科の博士課程に在学中。

このエッセイを書くにあたり大学生の立場から考え直したところ、中高一貫校の持つメリットの一つは、上の立場の人の意図する事について考える機会が多いという点だと思いました。ここでは具体的に二つのエピソードをここでは紹介したいと思います。

私の学校では教科担任は基本的に六年間一貫して一つの学年を見ていたのですが、独創的な授業を行う先生が多かったと記憶しています。例えば、完全自作、手書きの教材のみで授業を進める幾何の先生、生徒の精神・身体成長に合わせ毎年の推薦図書を提示してくださる現代文の先生、一年間かけてエルニーニョ・エニーニョ現象について語った地学の先生もいました。一方、英語の先生は教科書に即した資料を作製し、非常に緻密に授業を進めていらしていました。またこの先生は早朝の授業外時間を使い、希望者にフランス語を教えて下さっていました。中高一貫校は、受験を意識しつつも先生方なりに生徒の糧になるような授業を行うことが出来る良い場であり、生徒側からしても、先生方の教育方針を汲み取る機会が多い場でもありました。

もう一つのエピソードは毎年五月に開催される運動会です。私達の学校の運動会は完全に学生によってのみ運営されており、その準備は一年間をかけて入念に行われます。チームは縦割りで組まれ、高校三年生が中学一年生から高校二年生までを指導します。入学したばかりの中学一年生から見た高校三年生は恐怖の対象でしかなく、顔合わせ時において泣き出す人もいたぐらいでしたが、練習や模擬試合、ミーティングなどを経て絆が深まっていき、本番では嬉しさや悔しさで涙を落とす程、思い入れが強くなるイベントでした。高校二年生までは参加者側の立場であり、ただ流れに乗って楽しむイベントでしたが、自分が高校三年生で視点が一八〇度変わりました。どのようにして指導学年との絆を深めるか、練習効率を最大限にするためのスケジュールはどう組むべきか、そもそも指導側としてどのように振る舞うべきか、などについて半年以上議論を行った上で四月の顔合わせ、その後一か月余りの練習を経て本番での優勝を目指します。多くの学生はここで初めて、運動会を円滑に進めるためにはどのような点を考慮しどの程度の下準備が必要かについて痛感させられます。こうした双方向からの視点は、このような学生主体で取り仕切られる、縦割りのイベントを通さないと体験できないものだと思います。

ひと・クローズアップ

信州大学工学部長に就任された半田志郎氏

高校第26回のご卒業。信州大学工学部大学院（電子工学）を経て神戸大学博士課程に進まれ、電子情報通信分野で工学博士。長野高専・信州大学助教授から、平成17年教授、同24年から信州大学評議員を務める。

○どんな高校時代でしたか。

松代中時代に水泳４００Ｍ個人メドレーで県で優勝し、高校でも水泳班に入りました。しかし水泳は、中学で「燃え尽き」たようです。物理と数学が大好きで「難問集」を買い求めて解くことが楽しかったです。しかし国語や社会科が大の苦手で、当時の高校入試には社会科がなく、４教科だったので屋代高校に合格できたと思っています。

○研究分野について教えて下さい。

情報通信工学が専門で、キーワードは「移動通信、可視光通信」です。可視光通信とは、光の強弱を信号に置き換えて通信するもので、昨年は小型人工衛星「ぎんれい」においても、その実験を行いました。今後にむけては、ＩＯＴ（Internet of Things）と言われるように、すべての通信機能をインターネットにつなげる分野に取り組んでいます。

○中・高校生への期待をお願いします。

附属中には入試がないことが良いことです。受験のためにやる勉強では探究心が育ちませんし、テストの点数によって文理系統を決めたり、大学を決めたりは好ましいことではありません。興味があるならば、大学の偏差値ではなく学部や学科で選ぶべきです。

人には二つのタイプがあると考えています。緻密に理論を組み立てていくが巨視的な見方が苦手な人と、アイディアや創造性はあるが緻密性に欠ける人です。研究には、どちらのタイプの人も必要です。仕事でもそうですが、一人でやるものでなく、共同でやるものですから、自分の特性を見極めて、個性を生かしていってほしいですね。中高校生とも、やはり自分の好きなことをやって欲しいですね。

新任の副校長 篠原謙治先生にお聞きする

副校長 篠原 謙治 先生

①まずは、着任のご所感からお伺いいたします。

中学生も高校生も、強い志をもって本校を選び学校生活を送っていると感じています。また、元気に挨拶ができる生徒が多く、体育館の入口に並べられる上履きがきちんと揃っているところなど、気持ちがよい学校です。

②東御市立東部中学校の教頭先生からご着任と承りました。これまでどんな学校にご勤務でしたか。

松本の丸ノ内中学校を初任に、これまで中・南・北信の小・中学校、及び長野市教育委員会の指導主事としてお世話になり、本年度屋代高等学校附属中学校に着任いたしました。

③ご専門はどんな分野ですか。

数学が専門です。大学では、整数論研究室に所属して研究を行いました。数学の傍ら、英語の免許も取得しました。

④ご趣味については、いかがでしょうか。

高校、大学時代はスキー部に所属しました。現在は、野菜作りとか温泉巡りにはまっています。読書も合わせて、これらは自分に解放感を与えてくれます。

⑤附属中学生への期待について、お伺いします。

将来は各分野のリーダーとして、次の社会を牽引していってほしいです。そのために、主体的に取り組もうとする力、積極的に人とかかわる力、思いやりの心、グローバルな視点、幅広い知識や技能、そして、健やかな体を育んでほしいです。

⑥今後の課題をお聞かせ下さい。

知・徳・体のバランスですね。社会のリーダーは、このバランスが大事だと思います。特に、徳の「豊かな人間性」を屋代高校附属中学校の生活で学んでほしいと願っています。

人・インタビュー

陸上100mで学生日本一
日本選手権で２位の
富山大医学部５年生
宮澤　有紀 さん

更埴西中出、中学時代は全中100mで３位、200mで４位。高校61回普通科の卒業。高校時代は３年の北信越大会に出場するが、インターハイ出場を逃す。富山大学医学部に進学し、４年生の平成26年、コンテイネンタルカップ（モロッコ）からナショナルチーム入り。去る６月の日本学生選手権で11秒60のタイムで優勝（長野県記録を更新）。身長167cm、体重57kg

○この度は「学生日本一」に続いて、六月の日本選手権では福島千里選手に続いて二位入賞、一躍注目されています。医学生との両立は大変ではありませんか。

周囲が思うほど大変なことではありません。友人の「就活」を見ているので、私の方が楽をしている気がしています。ただ、ここにきて八時間の食事なし、立ち通しの実習には、ちょっと閉口しました。

○NHKテレビ「スポプラ」の特集を拝見しますと、高校時代はいろいろ悩まれたようですね。

はい、屋代高校時代は、県男子100Mの記録を持っておられた中津敦喜先生にお世話になりましたが、原因不明の病気から不本意な成績でした。体調を悪くしたり、記録は伸びないし、苦悩の連続でした。しかしそのお蔭で「引き出し」が沢山できて、今の自分があります。順調な高校生活だったら医学部に進学することも、今の走りもなかったと思います。頑張っていると神様はご褒美をくれるものですね。

○その後、記録はいつ頃から伸びましたか。

大学入学時は、もう陸上はやめようと思っていました。しかし入学した日に陸上部の看板を見ると、やはり・・・。一年生の冬の練習から本格的に取組みましたら、それが効果があったようで、大学二年の春から伸びてきました。

○国際大会等で、外国人のアスリートについて感じることはありますか。

―彼らは、ポジティブで強烈な闘争心をむき出しにします。日本人は予想を立てて、いわば自分の限界をつくるのですが、彼らは失敗しても、委縮せず、常に前向きで、限界を設けないですね。

○今後の抱負について聞かせて下さい。

当面、日本歴代10位となる11秒45を目標にしています。その次はオリンピック標準記録である11秒33です。自分には改善すべきところが見つかっていて、「伸びしろ」を感じています。脚を上げるというより、地面を蹴る力を強くすることでその反発力を速さに変えていくことです。医学生としては、予防医学や東洋医学を含めた「総合医療」分野に進みたいと考えています。

○最後に中・高校生に、学習についてもアドバイスをお願いします。

使う参考書などは、極力絞りこんで、徹底的に繰返すことがコツですね。問題を見たら反射的に答えが浮かんでしまうほど、繰返します。またその復習・反復する間隔は、短い方が記憶に残りやすいと言えますね。

フィオナ先生のパズルコーナー

Fiona Sensei's English Puzzle

Satoshi, Saya, Ryusuke, Erika and Anna are all students at Yashiro high school or its affiliated junior high school. Using the hints below, work out their ages (14, 15, 16, 17, or 18 years old), their favorite subject (Math, English, Biology, Japanese or Art) and where they live (Nagano, Chikuma, Ueda, Saku or Matsushiro).

1. Satoshi doesn't like English or Japanese. 2. Saya is older than Ryusuke and Erika. 3. One of the girls likes Biology. 4. Ryusuke lives in Matsushiro 5. Ryusuke is younger than Anna but older than Satoshi. 6. Anna is neither the oldest nor the youngest. 7. The person who lives in Nagano is 16 years old. 8. The students who like Art and Biology don't live in Nagano. 9. Erika is not in junior high school. 10. The student who likes Art is 14 years old. 11. The person who likes Biology is 17 years old. 12. The students who live in Nagano and Ueda don't like English or Math. 13. The student who lives closest to the school likes Math. 14. The youngest student's house is close to Karuizawa. 15. Neither Anna nor Saya are good at languages. 16. Ryusuke is about to graduate from junior high school. 17. Anna recently had a birthday and now her age is an odd number.

【編集部からお知らせ】

The three best answers will be rewarded with a 10,000 yen book card each in solving the above puzzle by Fiona Sensei. The dead line will be Aug.12. Both junior and senior high school students can apply. Please visit the alumni office with your answer.(The office hour is from 1 p.m.to 4 p.m.)

フィオナ先生帰国へ

これまで「ユース版」に難問をご提供いただいてきたフィオナ先生は、５年間の任期を終えられ、７月22日、帰国の途につかれました。お子様のいらっしゃるスエーデン経由にて、母国オーストラリアに帰られます。学生時代、文化人類学とアジア研究を専攻され、その後修士課程で英語教師の学位（TESOL）をとられ、最終的には「平和学」の博士課程を取得された先生でした。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

附属中の担任先生紹介

①これまでの勤務校等②大学での専門分野③ご趣味等④着任所感⑤中学生への期待

1年A組担任　田所 慎也 先生

①原村立原中→佐久市立浅間中→信州大学教育学部附属長野小→須坂市常盤中
②材加工学、及び流体力学
③つり
④多少疲れますが、高い志を持った生徒と学べることを楽しく感じます。毎日が忙しく、1日が30時間ぐらいあったらうれしいです。コピーロボットでもいいです。
⑤10年後、どんな日本を創るのか、20年後、どんな世界を創るのか、すでにビジョンはあることと思います。安心して暮らせる老後をお願いします。

1年B組担任　塚田 卓史 先生

①茅野高校→屋代高校
②英語学でした。
③ギターやサッカー観戦です。
④素晴らしい生徒達の持つ可能性を引き出したい。
⑤小さくまとまるな。失敗して当然。どんどんリスクを冒せ！と申し上げます。

3年A組担任　小松 猛 先生

①駒ヶ根市立赤穂中→長野市立柳町中→松本市立山辺小→松本市立明善小→松本市立丸の内中→塩尻市立丘中
②大学では有機合成、大学院で光化学です。
③写真や天体観察
④学習に意欲的に取り組む生徒が多いことです。
⑤心技体バランスのとれた人間になって下さい。

3年B組担任　金井 和義 先生

①小諸高校→下高井農林高校→東御市立東部中
②上代文学、口承文学でした。
③歴史やスキー
④ポテンシャルの高い生徒が多いことです。生徒に負けないよう、まず自分が力をつけなければ…。
⑤君達が活躍するフィールドは世界だ。もっともっと大きな自分を目ざそう。

附属中入学から三か月

平成二十七年度入学生保護者　岡　真紀

この度、息子の願いが叶い附属中学校に入学することができました。高校生と一緒に行われた入学式は、盛大で厳かなものでした。親子共に、新しい生活に期待膨らむ入学式となりました。

息子は電車通学で乗り換えもあり、毎朝六時半過ぎには家を出ています。班活動が終わって帰ってくるのは、七時過ぎになります。宿題をやっている間にウトウトと眠っていることもありますが、本人は、将来の夢と班活動をやりたいために選んだ学校ということもあり、苦でもないようです。友達、先輩にも恵まれて、とても楽しく通っています。

親としましては、授業内容や速さに付いていけるかを心配しております。また、毎日重い鞄を背負っての登下校が、大変だなと思います。班活動の帰りに、電車の中で心地よい揺れにいざなわれ、降車駅を乗り過ごす失敗もありました。その際には、駅員さんの親切な対応で、無事に帰って来ることができました。

これからも、わからないこと、不安なことなど様々な困難が起こると思います。周囲の友達、先輩、先生方等に教えて頂きながら、自分で良く考え、最善の道を探して行動していけるようになって欲しいです。常に人への感謝の気持ちを忘れないで、自身の目標や夢に向かって頑張っていきましょう。

私たちにできること……棚田体験学習から学ぶ

附属中一年　宮坂　夏生

「うわあ」

普段なかなか感じない、泥に足がとられていく不思議な感覚に、始めは驚いた。けれど、とてもわくわくしていた。

バスに揺られながら、私たちは姨捨に向かった。棚田に着くと、すぐ眼の前に絶景が広がっていて、思わず声を上げてしまった。今回、私たちが田植えを行ったところは、それほど大きな田ではなかったのだが、それでも疲れてしまった。ここで作業をする方々の苦労を身をもって感じることができた。

名月会の方や文化財センターの所長さん、長楽寺の住職さん、語り部さんのお話もお聞きした。中でも、私の印象に残っているのは、「棚田の問題点」についてのお話だった。今、耕作者の高齢化や後継者不足が問題となっている。この状態が続けば、災害の原因になったり、文化が途切れてしまったり、棚田の美しい景観を守るのが難しくなってしまったりするそうだ。しかし、私たちが体験学習を行うことや、市民団体の方々が耕作を行うことなどにより、景観の保全に少しではあるが、協力できるという。あの棚田の景観を見ることができなくなってしまうかも知れないと思うと、とても寂しい。だからこそ、私たちが協力できることが嬉しいのだ。私たちが関わる作業は、ほんの一部でしかないが、私たちにできることを精一杯したいと思う。

◇編集後記◇

附属中学校の開設にあたり創刊した「ユース版」が第4号を迎えました。お忙しい折、玉稿をお寄せくださいました関係皆様には、心より感謝を申し上げます。また取材については、「鳩が丘新聞」班員（以下の皆様）にもご協力をいただきました。○班長

三年　荒井航平・○大澤賢也
　　駒村智哉・坂田春樹
二年　倉石佳奈・新出海斗
　　松木太郎・松本　樹
　　村上絵理
一年　宮澤紀伊・山田彩菜

附属中・高校生を問わず「鳩が丘新聞」の編集に興味ある方の入班をお待ちしています。（国語科・吉沢道夫先生までお知らせください）